

殉教

シリーズ・パウロ

第39回

罪の結果である死

- 一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。 <ローマ5:12>
- 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。 <ローマ6:23>

キリストによる罪からの解放

- イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。 <ローマ4:25>
- 実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。 <ローマ5:6>

キリストを信じる者はキリストと 共に死に、キリストと共に生きる

- わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。＜ローマ6:8＞
- 主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。＜Iテサロニケ 5:10＞

生きるのも死ぬのも

- わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。
＜ローマ14:8＞
- わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。＜フィリ1:21＞

死は勝利である

- この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」
＜I コリント 15:53-55＞

永遠の住みかを望みつつ

- わたしたちの地上の住みかである幕屋が滅びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。
<Ⅱコリント5:1>

パウロにとって「死」とは

- 死は永遠の世界への入口である
 - 死は終わりでも敗北でもない
 - 死は通過点に過ぎない
- 死を味方にして生きる
 - キリスト共に生きているものはキリスト共に死に、よみがえる
- 自らの生と死をもって福音を証明したパウロ